

## 中央教育審議会総会（2019年4月17日）における主な意見

### 新時代に対応した義務教育の在り方

- 教科担任制は小学校の在り方を変える非常に大きな議論。現場の教師は文系出身に偏っており、教育の資質向上に非常に重要。これまでの導入例を見ると、小学校5～6年生段階での導入は効果が高いという印象。
- 教科担任制について、学校における働き方改革の観点から、これまで専科指導の拡充を求めてきたが、教師の持ちコマ数の減少が期待される。
- 専門性・質の高い教育の実現には児童の発達段階を考える必要があり、そこに教科担任制の意義がある。
- 教科担任制について、学校における働き方改革の観点では、成果として外国語と理科が挙げられる。定数の改善や加配について研究する必要があるのではないか。
- 教科担任制の導入により質の高い授業・教育が実現したと実感しているので、今回の議論には大変期待している。
- 先端技術を活用した個別最適化された学びの実現が大事。AIドリルを活用するなど、教育の在り方を転換する覚悟で行ってほしい。

### 新時代に対応した高等学校教育の在り方

- 理科、社会など、難しいものを分かりやすく伝えることで生徒の興味・関心を引き出すことができる。高校と大学の連携が重要ではないか。
- 高等学校と大学の協働について、もう少し踏み込んで早期履修制度の推進について議論してもよいのではないか。

### 増加する外国人児童生徒等への教育の在り方

- 外国人児童生徒等への教育については、教科書を読むためのアカデミックな日本語教育に課題がある場合が多いと聞く。また児童生徒だけでなく、学校を超えて親への支援も重要。

## これからの時代に応じた教師の在り方や教育環境の整備等

- 学びの個別化を進めていくことは重要であり、そのためには外部人材を教師として活用していくことが必要。公立小学校の特別免許状は、平成元年から29年までの間、わずか2件しか実例がなく機能していない。免許制度全体の見直しを検討すべき。
- 免許制度について、学校現場への多様化する要望に応えるためには多様なリソースを用意することが必要。民間人を副校長などのリーダーとして起用することも検討するべきではないか。
- 免許制度については、これまで制度改革について議論されてきたものの、質の担保を考えるとなかなか進んでこなかったというのが現状。質保証を伴う免許制度の弾力化の議論が必要。
- 現場でのICT活用について、教師の長時間勤務やICTインフラの脆弱性といった要因のため、現場ではネガティブな反応が多い。抜本的な学校現場の情報化のための新しい仕組みが必要。
- ICT環境整備について、地域・学校間格差が大きいが、新しい学習指導要領が来年度から始まることを考慮すると、早く議論を進めることが必要。
- 一人一人の能力・適性等に応じた学びを実現するためには、ICT環境整備が重要。本気になって予算をつけて実施することが必要なのではないか。
- 特別支援教育においてICTの活用は重要であり、今後も推進していくべき。
- 今の学校教育の仕組みが現代の子供たちの発達状況に合っているか考える時にきている。例えば、小学校の高学年段階で、もう少し専門性を持った方が直接教えられる仕組みを作ることは重要。
- 専門性の高い社会人を学校現場に参画させることで、教師の意識改革にもつながり、より質の高い教育が実現するのではないか。
- 外部人材を教師として活用していくためには、新たに社会人枠の定数を設け、学校独自の裁量で起用する仕組みを検討すべき。

- 学校における働き方改革は教師だけの問題ではなく、地域・家庭との連携が重要。
- 知・徳・体の教育の実現には、児童生徒が多くの人に関わることが重要であり、コミュニティ・スクールの効果は大きい。また、企業等の働き方改革等により空いた時間で地域の人たちが教育に携わることを促すなど、文科省が旗を振ってキャンペーンを張るのはいいのではないか。

#### 今後の議論の進め方について

- 本諮問は非常に多岐にわたる内容となっており、当面は総合的に議論をし、その後、各論で議論することが必要ではないか。
- 今回の諮問は非常に多岐にわたるため、初等中等教育分科会の下に特別部会を設置し、論点整理を示せるような仕組みが必要ではないか。

#### その他

- がん教育を含め健康教育は児童生徒にとって重要であり、今後議論をすべき。
- 外国人児童生徒や医療的ケアが必要な特別な配慮を要する児童生徒等の教育の在り方について考えることは重要。
- 学校現場では、外部の人材を巻き込んでいったときに情報共有をどこまでしていいか迷っているケースが多い。
- 社会の在り方を見据えて人材育成の在り方を考えるのが通常だが、子供たちはそのようには考えない。想定される枠から外れる人が本当の多様性であり、イノベーションの元になる。そういった人々をいかに拾い上げていくかが大事。
- Society 5.0 社会の到来を見据えた時、ただ学ぶというのではなく、好奇心・探究心や身の周りの問題を解決したいという意欲と結びつく教育が必要なのではないか。

※ 上記内容は、委員の了解をとっておらず、事務局がまとめたものである。